

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成20年5月号

編 集 大井 利夫  
発 行 人 〒102-8414 東京都千代田区一番町13-3  
社団法人 日本病院会 通信教育部  
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)  
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)  
URL <http://www.hospital.or.jp>  
受付時間 9:00~17:00  
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)  
発 行 日 毎月1日  
定 価 1部 150円 1カ年1,600円(送料共)  
郵便振替 00190-5-396045  
名 義 社団法人 日本病院会 通信教育部

## 診療情報管理の改革から10年

中川原 讓 二

中村記念病院 脳神経外科診療本部長・脳卒中センター長・診療情報管理室長  
北海道会場 基礎課程(臨床医学各論Ⅳ)講師

今から30年前(昭和53年)に私が脳神経外科の研修医として病院勤務を始めたころ、救急外来ではいつも真新しい診療録に患者の神経症状や頭部CT検査の結果などを走り書きしていました。あの時の診療録は今どうなっているのか、所在が気になります。多くは一定の年限を経て処理されたと思われるが、どのような約束事に基づいて処理されたかは不明です。しかし、当時自分が書いた手術記録は製本されて残っていますので、当時の術式を知る手がかりとはなりますが、手術成績の詳細は不明です。私が脳神経外科医を目指したころは、ちょうど手術用の顕微鏡が導入され、破裂脳動脈瘤によるくも膜下出血に対する急性期のクリッピング術や顕微鏡下での脳内血腫除去術、脳梗塞再発予防のための頭蓋内外血管のバイパス手術などが盛んに行われた時代でした。日夜手術をたくさん経験し、治療成績の一部は学会等で公表されましたが、全体の成績はデータベース化されずに置き去りにされました。どんな時代の診療行為も真剣に取り組まれてきたはずですが、その時の診療録が保存されていなければ、当時の医療レベルを検証することさえできません。

当院での診療情報管理の本格的な取り組みは、平成9年に一人の診療情報管理士が職員として採用されたのを契機に開始されました。診療情報管理士との議論の中で、医療の質的向上に不可欠な要因として、診療録のデータベース化に基づき病院機能を客観的評価できる指標を作成すること、また診療情報の適切な保存と有効利用がなされていること、が特に重要であると認識され、その達成を診療情報管理の目標にしました。同年の暮れからは診療情報管理委員会が毎月開かれ、診療録の様式、管理の方法に関する事項あるいは開示、秘密保持に関する事項であるとか、情報の二次利用などに関して審議が行われ、院内ルールが一つ一つ作られました。平成10年からは、院内LANを活用した診療情報の電子化とデータベース化が開始され、平成12年4月には院内組織上、診療部の一部として診療情報管理室が新たに設置されました。そして、平成17年には私自身も初心に帰って通信教育を受講し、診療情報管理士の資格を取得しました。診療情報管理の改革から10年の歳月を経て、現在、診療情報データベースの更新と二次利用は、日常診療・臨床研究の遂行や病院の運営にとって必要不可欠となっています。診療情報管理士のさまざまな取り組みは、診療情報を病院職員の共有財産に押し上げ、医療の発展にも貢献すると確信しています。